

児童自立生活援助事業 なごみハウス圓

平成 31 年度 事業報告

平成 31 年度は、自立援助ホームを休止し地域小規模児童養護施設へ移行することが決まっていたため、在籍しているホーム生の自立と、児童養護施設として活動するための準備を行いました。昨年度入所実績により、暫定定員（4名）となりましたが、自立援助ホームとしての受け入れは出来ないため、年度末までの短期間、もしくは児童養護施設となっても、継続して生活できる児童のみの入所とし、一時保護委託の受け入れを積極的に行いました。

年度当初に在籍していたホーム生 3 名は、4 月に女子 2 名（就職 1 名、家庭引き取り 1 名）、8 月に男子 1 名（自立、一人暮らし）が退所しました。

短期間の希望で 7 月に入所した女子 1 名（主訴、性格行動、無職のちパート勤務 1 名）は、1 月末に退所（家庭引き取り）しています。9 月、11 月に入所した男子 2 名（パート勤務 17 歳、全日制高校 17 歳、2 名とも保護者不在で未成年後見人）は、引き続き、児童養護施設で生活しています。入所児の中で 2 名は家庭からの入所、1 名は他施設からの委託変更となっています。31 年度中のホーム生の平均利用期間は 5 カ月でした。

一時保護委託は、2 歳から 17 歳と幅広い年齢層、延べ 25 名を受け入れました。1 人当たり平均 4 日間、最短 3 日、最長 49 日間、圓を利用しています。

今年度もホーム生との対話を大切にし、一人ひとりの相談や要望に応えられるよう努めました。苦情や要望に関しては、日常の会話の中で挙げられた『困りごと』を拾い、ルールの変更が必要な場合は、簡易なホーム会を行って、ホーム生から意見を得ながら話し合いを行いました。

また、児童養護施設に移行するため、ホーム生も職員も準備を進めた 1 年でした。ホーム生に対しては、児童相談所や関係機関との連携を行い、今後についてホーム生の最善の利益となるよう検討し、ホーム生とも話し合いを重ねてきました。職員としては、来年度に向けた準備を行うと共に、一時保護委託を多数受け入れることで、非常勤職員の方にも関わりに慣れていただけるよう努めました。建物の修繕に関しては、様々な検討を重ねましたが、昨年度中の修繕には至りませんでしたので、移行後の亀山学園に引き継いでいます。

自立援助ホームなごみハウス圓は、平成 22 年に開設し、10 年間で延べ 41 名が生活してきました。時代の変化に合わせて大きく方向転換し、自立援助ホームとしては一旦休止となります。休止期間は 2 年間で予定しており、その間、周囲のニーズを確認しながら、復帰するかどうかを検討したいと考えております。

これまでご支援ありがとうございました。